



公立大学法人名古屋市立大学 環境報告書 2020（概要版） [令和2年度版]

名古屋市立大学環境憲章

平成24年4月1日制定

[I] 基本理念

人類の様々な活動が地球環境に大きな負荷を与えているという現実の中で、環境負荷の低減と環境の保全に努めていくことは、教育研究活動を通じて次世代を育成し、社会に貢献する大学の使命である。

名古屋市立大学では、様々な危機に直面している地球環境を救うために、幅広い専門分野の教育・学術研究・社会貢献活動を可能にする総合大学としての特徴を活かし、以下の基本方針に掲げる環境保全活動を積極的に推進する。

[II] 基本方針

- 1 環境問題への理解を深める教育を推進し、将来、持続可能な地球環境を保全し、環境問題に取り組んでいくことのできる意欲ある人材を育てていく。
- 2 学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく。
- 3 生物多様性の保全に関連する学術研究等を推進する。
- 4 環境に関連した公開講座、シンポジウム等を地域社会や企業などと連携して開催し、地域社会に貢献する。
- 5 環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく。
- 6 物品調達に際してグリーン購入の推進を図るとともに、設備・機材等の利用にあたって廃棄物の減量化とリサイクル資源の活用を推進していく。
- 7 環境マネジメントシステムを絶えず見直すとともに、環境保全活動の成果（環境報告書）を広く社会に公表していく。

理事長メッセージ

新型コロナウイルス感染症が未だ終息をみせない中、先が見えない困難な状況が続いています。本学は、その中にあっても創意工夫を重ねながら、環境問題への様々な取組みを通して、未来のリーダーを育成し、世界に発信する研究を行うことにより、社会貢献に努めております。

最近地球レベルで、自然破壊に起因していると思われる地球温暖化と大災害が増悪しています。そのような状況下において、本学は環境に配慮した、持続可能な社会を築いていく取組みを全学的に推進してきました。

平成24年には、新たな環境憲章を制定し、基本理念とそれに基づく7つの基本方針に対して、計画目標「アクションプラン」を策定し、その達成に向けて取り組んでいます。

また平成26年には、本学が進む目標として策定した「名市大未来プラン」において、環境問題への具体的な取組方針を定め、教育研究や業務運営の改善を通じて、環境負荷の低減と環境の保全に努めているところです。

令和元年12月には、NCU アジア拠点校シンポジウムを開催し、海外からの研究者を招へいし、SDGsをテーマに講演や意見交換などを行いました。それを踏まえ、令和3年5月には「名市大SDGsセンター」を設立したところで、本学はこれからも地道に地球環境を守る活動に努めてまいります。

本報告書を通して、本学の環境安全確保の活動への、温かいご理解とご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。



理事長
郡 健二郎

令和3年10月

公立大学法人名古屋市立大学

理事長

郡 健二郎

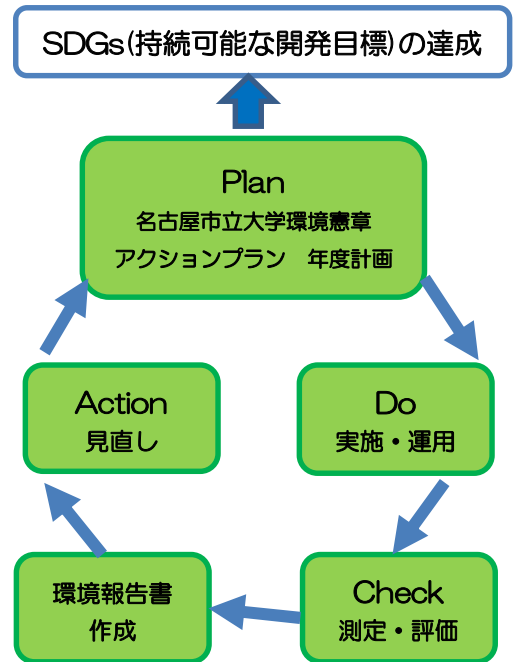
環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境マネジメント」といい、このための事業所内の体制・手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本学では、環境憲章で定めた基本方針の実現のために、基本方針の各項目について3年間の計画目標(アクションプラン)及び年度計画を定めています。

これらの計画達成を通じて、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に積極的に取り組んでいます。

右図に示すPDCAサイクルを名古屋市立大学の環境マネジメントシステムの体系と定め、同システムの継続的改善により、さらなる環境への取り組みを進めていきます。



アクションプランの主な取組状況

1. 教育への取組み



全学共通の教養教育科目においては、全学部生が履修できるよう、教養教育の環境関連の科目15科目を開講し、環境問題への理解と関心を深めるようにしています。

学部専門教育科目において、授業科目「ESD 概論」では、気候変動や生物多様性の損失をはじめとする環境問題が、自らの生活と密接に結びついていることに気づき、どうしたら持続可能な地球環境の保全に取り組めるのかを身近な地域課題を取りあげながら検討し、実行しています。

また、大学院教育においても、環境問題について様々な学問的手法による分析、現地調査などによる研究を取り入れた授業科目が提供されています。「建築設備設計特論」では、日本を含む世界のエネルギー消費事情と政策動向を概観し、地球環境と建築とのかかわりを知ること、未来を担う一人ひとりがその責務を認知し行動に移すことを目指しており、この授業を通して、建築設計のなかで実現できる省エネ・環境負荷手法

教育科目	授業科目名(令和2年度実績)
教養教育 (15科目)	ESDと地域の環境、環境行動学と情報リテラシー、環境と制度・社会・政治・経済、環境科学、動物とヒトの進化多様性、都市と自然、行動生態学、植物とバイオテクノロジー、エネルギーのサイエンス、地球史入門、地域生態学、地域社会で活躍する女性、社会と医学、教養として知っておきたい様々な病気、次世代エネルギーワークショップ
専門教育 (17科目)	社会医学(予防医学応用)、社会医学講義(予防医学基礎)、基礎自主研修(環境労働衛生学分野選択)、衛生化学、環境衛生学、薬理・毒性学Ⅳ、公衆衛生学、環境経済学Ⅰ、ESD入門、ESD概論、保育内容演習(環境)、ランドスケープ論、環境管理論、建築環境工学、建築環境計画、国際保健活動論、文系のための環境理学入門

について理解でき、建築設計者として取り組める環境配慮策を身につけます。

大学院教育
(13科目)

Basic Medical Science 1、Basic Medical Science 2、社会医学系基礎、予防・社会医学講義 I（社会における医学・医療と疫学統計解析法）、環境労働衛生学（講義・演習・実験実習）、環境労働安全管理学概論
I(Introduction of environmental health and safety management I)、化学物質と環境、グリーンケミストリー、ESD 研究 B、ランドスケープ特論、建築環境心理特論、建築環境計画特論、建築設備設計特論

2. 学生活動への支援



新型コロナウイルス感染症により、学生の自主的な活動の実施形態が大きく影響を受けたため、当初の大学祭、課外活動での環境に関する取り組みを支援する計画を変更し、環境に関するオンラインイベントの参加促進を行いました。

また、国際的な共同研究・支援活動として、世界の食糧生産と分配の改善と生活向上や生物多様性を目的とした国連食糧農業機関（FAO）でのインターンシップに関する協定を締結しています。

3. 生物多様性の保全に関する学術研究の推進



理学研究科では、名古屋周辺に生息する貝類の進化多様性について分子系統解析を行った研究成果を4編の学術論文にまとめるとともに、名古屋市内で絶滅が危惧されているカエル類や名市大滝子キャンパス構内の小動物等についてDNA分析を行い、陸の豊かさを守るために必要な生物多様性情報を取得しました。

また、なごや生物多様性シンポジウム～みんなでつなぐ生物多様性の未来～を、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと共同開催し、生物多様性研究センターでこれまで行ってきた研究の成果を市民に分かりやすく伝えるとともに、愛知県内の8高校の生徒たちと生物多様性保全活動の今後の方向性について有意義な議論を行いました。



4. 地域社会等との連携



【環境に関連したテーマの講座等の開催】

名古屋市科学館との連携により、中高生向けに、サイエンスパートナーシップイベント「物質科学

と生命科学のリテラシー」を開催し、物質科学と生命科学の魅力を紹介しました。

Zoomによるオンライン配信で、サイエンスカフェ in 名古屋 第154回「スコープで探る未知の世界～波打ち際で爆発的に進化したハゼたち～」を開催し、高校・中学校の生徒13名・教員2名を対象にハゼ類の生態を通して、環境保全の課題に関する講演を行いました。

また、前述のように、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと共同で「なごや生物多様性シンポジウム～みんなでつなぐ生物多様性の未来～」を開催し、理学研究科附属生物多様性研究センターからの研究報告を行ったほか、専門家と県下8高校の高校生とのトークセッションなどを通じて、生物多様性の普及啓発を行いました。

【市民と共に生物調査を行うイベントの開催】

市民とともに名古屋市内の全区で生物調査を行うイベント「なごや生きもの一斉調査2020 バッタ編」（令和2年10月2日～4日）で、理学研究科生物多様性研究センターのスタッフ2名が調査の地点リーダーを務めるとともに、理学研究科・総合生命理学部の学生3名が一般調査員として参加しました。

【名古屋市スポーツ市民局の消費者啓発事業との連携協力】

名古屋市スポーツ市民局の消費者啓発事業に、人文社会学部の学生がゼミ活動として連携協力し、その一環で令和3年1月18日～3月31日までオンラインで開催された「名古屋市消費生活フェア☆2020 オンライン展示会」でパネル展示を行いました。

プラスチックにかわる素材としてセルロースを使ったマスクと食品保存用ラップの提案や、使い捨てプラスチック容器を回収する方法としてのデポジット制に関するパンフレット制作や社会実験の成果をパネルで発表しました。

【SDGsに関するイベントの参加・開催】

令和3年2月5日～3月7日に開催されたオンラインイベント「SDGs AICHI EXPO 2020」や、令和3年2月1日～3月31日に開催された東京海上日動火災株式会社主催の「SDGs ギャラリー」にて、パネルを展示し、ESD（持続可能な開発のための教育）や環境教育などを専門とする教員の紹介を行いました。

SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決することを目指した「SDGs IDEA FORUM 2020」を名古屋市と共催で開催しました。名古屋市にキャンパスがある大学の学生を対象に、「名古屋をリサイクル先進都市に」「名古屋の海の豊かさを守ろう」「名古屋から食品ロスを減らそう」「多文化・多世代が共生できるまちづくり」という4つの地域課題の解決に向けたアイデアを募集しました。総アイデア数82件の中から厳選なる書類審査を通過した優秀8チームが2021年2月28日に開催された「SDGs IDEA コンテスト」でプレゼンテーションを行い、本学から参加した「NCU グローバル・ジャスティス・プロジェクト」が最優秀賞を、「Act of New Ring」が優秀賞を受賞しました。



5. 環境負荷低減への取組み



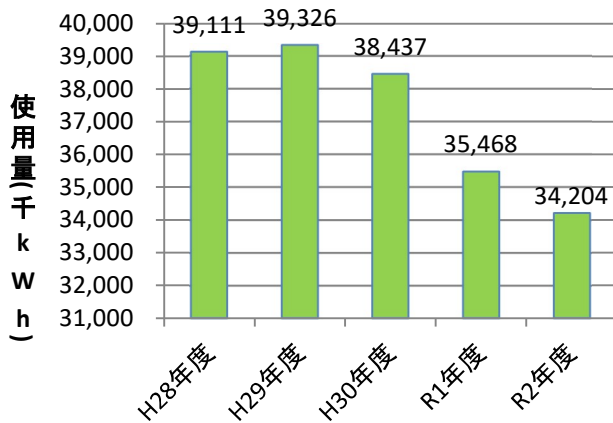
【エネルギー使用量】

令和2年度の大学全体のエネルギー使用量は、電気約34,204千kWh、ガス約3,993千 m^3 、水道約291千 m^3 となりました。対前年度比では、電気使用量は約3.6%の削減、水道使用量は約1.4%の削減となりました。

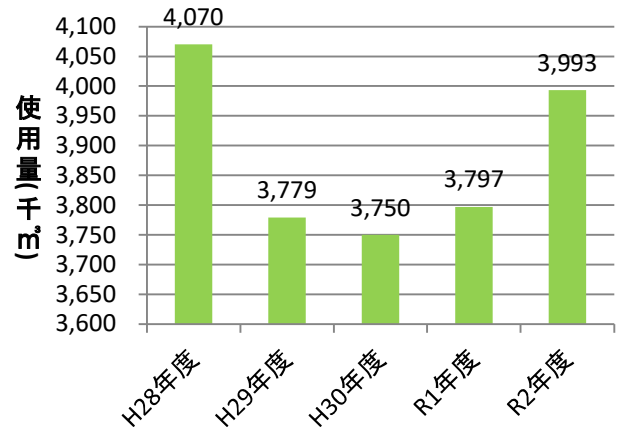
【温室効果ガスの排出量】

令和2年度の温室効果ガス排出量は25,711 t-CO₂となり、前年度より1.4%低い値となりました。

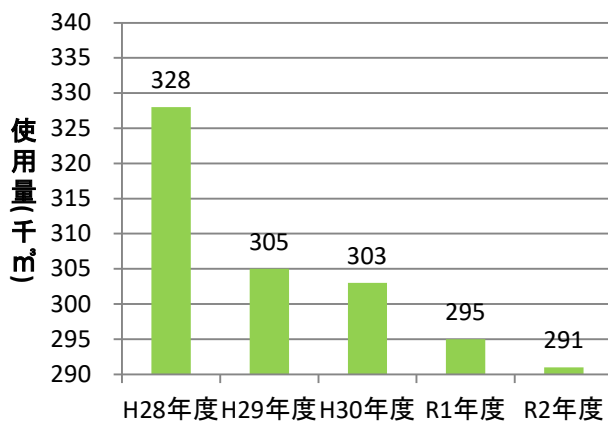
電気使用量



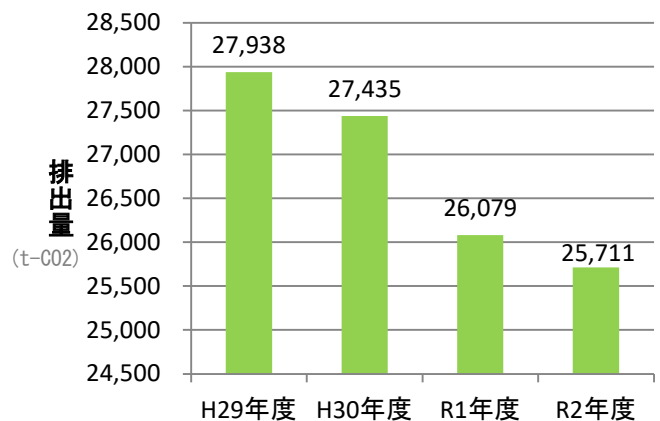
ガス使用量



水道使用量



温室効果ガス排出量



6. 名古屋市立大学病院の取り組み

12 つくる責任
つかう責任



病院においては、エレベーター、エスカレーターの運転時間の短縮、エレベーターの効率運用の推進、廊下やエントランス、外灯等、診療に直接影響の無い場所での照明点灯を必要最小限にする、患者さんや来院者に影響のない範囲で、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す等の、省エネルギー対策を継続的に実施して



平成30年度より、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す運用改善を一層推進しています。また、改修工事や設備更新などにより可能な箇所について、LED照明器具に切り替えて運用しています。

加えて、夏季に地下鉄出入口から外来診療棟までの歩行者通路に「グリーンカーテン」を引き続き設置し、来院者の暑さ対策に取り組みました。



報告対象組織 桜山（川澄）キャンパス 田辺通キャンパス
滝子（山の畑）キャンパス 北千種キャンパス

報告対象期間 令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

準拠あるいは参考にした環境報告等に関する基準又はガイドライン等

環境報告ガイドライン（2018年版）

作成部署及び連絡先 策定会議：公立大学法人名古屋市立大学環境委員会
事務担当：事務局大学管理部総務課

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-853-8005

公表ウェブサイト 本学ホームページ <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>